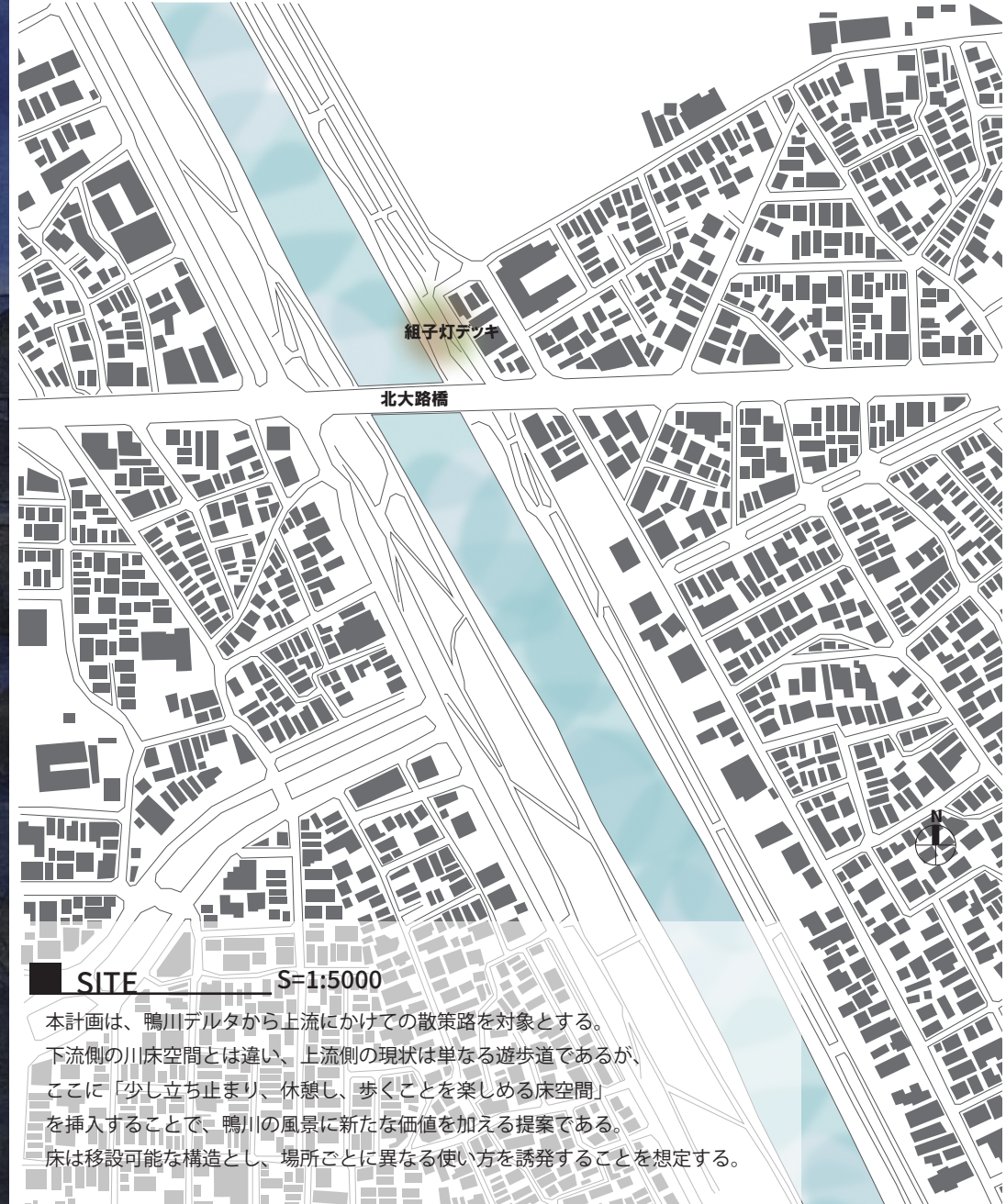


組子灯の川床

～鴨川の夜を演出する移設可能な床空間の提案～



夜間は組子模様の下に照明を仕込み、鴨川の風景に「夜の床」としての魅力を加える。

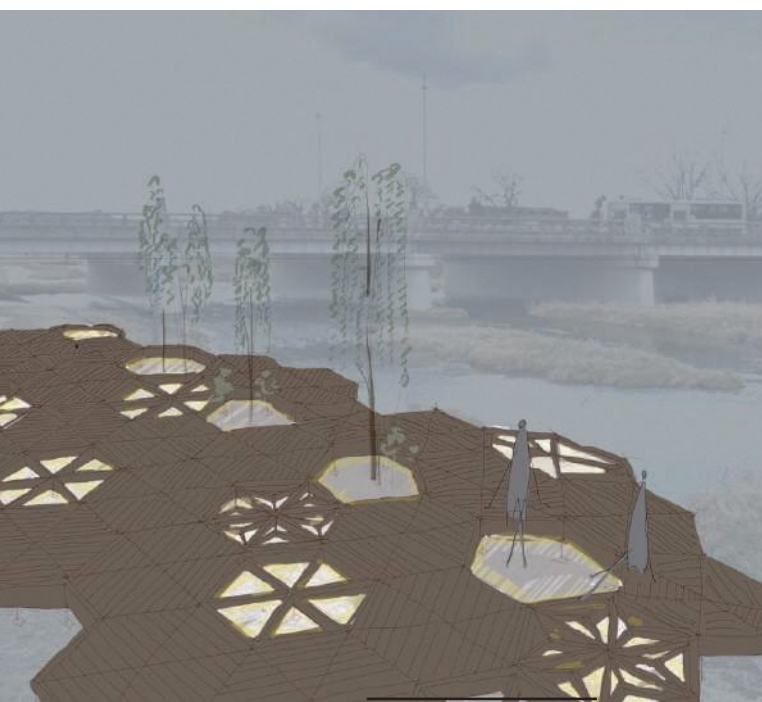


SITE S=1:5000

本計画は、鴨川デルタから上流にかけての散策路を対象とする。
下流側の川床空間とは違い、上流側の現状は単なる遊歩道であるが、ここに「少し立ち止まり、休憩し、歩くことを楽しめる床空間」を挿入することで、鴨川の風景に新たな価値を加える提案である。
床は移設可能な構造とし、場所ごとに異なる使い方を誘発することを想定する。

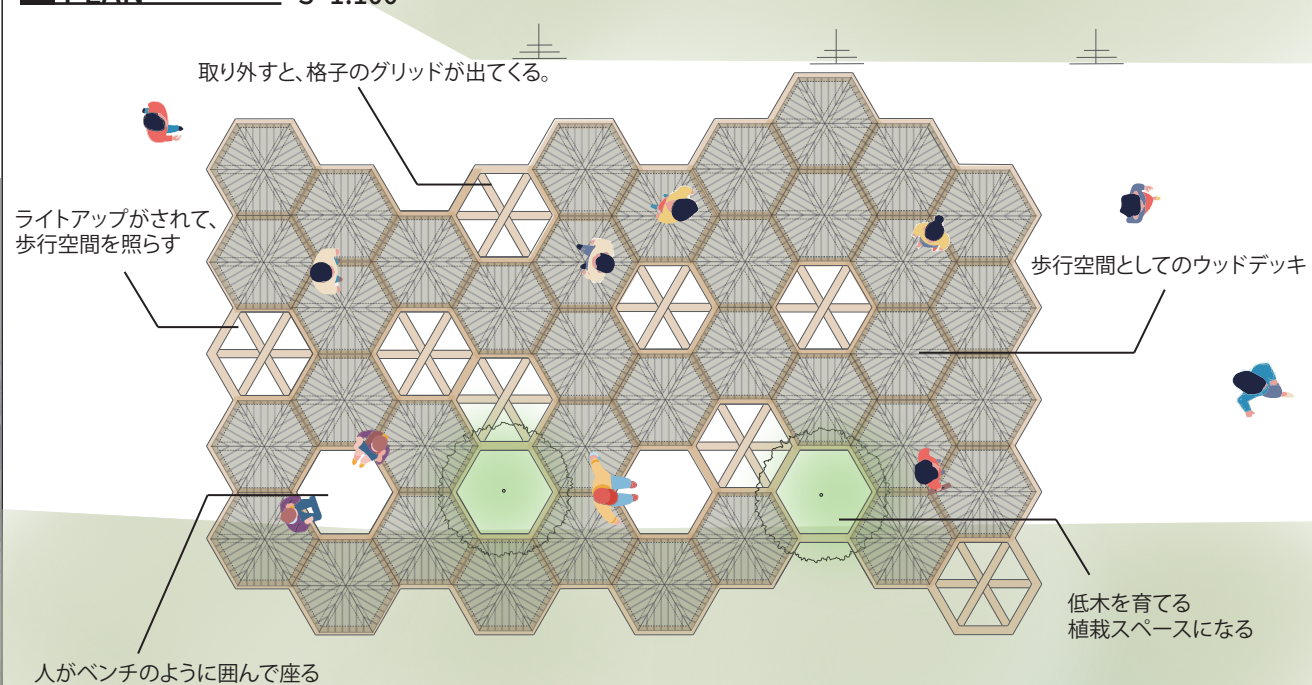
CONCEPT

間伐材などの地域資源を用い、「都市の庭」のような場をつくる。床は単なる地面でもなく、完全な建築でもない、中間的で柔らかな存在で、自然と都市をつなぐ媒となる
移設可能なモジュール式で多様な都市空間に展開可能でありつつ、組子灯が夜の京都の風情を作り出す
鴨川の風景を彩る新たな床空間の提案である。



PLAN

S=1:100



直径1.4m程度の円に相当し、1ユニット自体が2、3人程度の少人数で囲むベンチくらいのスケールになる。
都市の小さなパーソナルな公共空間の組み合わせが広がり、遊歩道や花壇などの都市空間を作っている。

DIAGRAM

700mm角のハニカムグリッド

基本モジュールは700mm角の正六角形のハニカムグリッド。
材料は1mの短尺材を中心に使用(3～4mの規格材に満たない間伐材を活用)。
モジュールの正六角形に対して、床は700mmの正三角形のユニットで作る。正三角形ユニットを組み合わせることで柔軟な構成が可能。
床を貼らない部分は、正角形のような表現になり、京都の趣を表現する組子のような奥ゆかしい都市の演出をする

